

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 『歌仙大和抄』の「歌意 図」を読む（一）」	単	2022年3月	『HIU 健康科学ジャーナル』創刊号、1～12頁	概要：三十六歌仙の和歌の絵入り注釈書である、元禄七（一六九四）年刊『歌仙大和抄』の構図や描写の特徴に着目することで、歌意図と和歌・注釈との関係、問題点を明らかにした。本稿では、手始めとして、最初の三図（柿本人丸、紀貫之、凡河内躬恒）を取り上げた。（総12頁）
2 (学術論文) 「菱川師宣記念館蔵『歌仙』一解題と翻刻・影印一」	単	2019年3月	『国文学研究資料館調査研究報告』第39号、141～173頁	概要：無刊記ながら、その挿絵は、菱川師宣の手になるという、菱川師宣記念館蔵『歌仙』について、書誌を報告し、引用和歌、掲載名所、歌人、頭注などに関する特徴、問題点を考察した。序文も含めて全文の翻刻と影印紹介をも行った。（総33頁）
3 (学術論文) 「天和二年刊『和国名所鑑』所引の和歌について 附 影印、翻刻、略注」	単	2019年3月	『広島国際大学医療福祉学科紀要』15、1～70頁	概要：天和2（1682）年刊『和国名所鑑』は、菱川師宣の名所絵四十図を見開きで大きく載せ、頭書にそれぞれの名所に関する解説を記した作品である。名所の選定方針や師宣挿絵の工夫、頭書の記述内容などさまざまな問題を孕む同作品の頭書所引和歌を詳細に検討することによって、『新古今集』の和歌が多用されている実態を明らかにした。稿末に、フランス国立図書館蔵本の影印・翻刻・略注を掲載し、今後の利用の便を図った。（総70頁）
4 (著書) 『仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合全注釈』	共	2020年2月	勉誠出版	著書全体の概要：『新古今和歌集』撰集のための重要な和歌作品である『仙洞句題五十首』と『水無瀬殿恋十五首歌合』に対しての、初めての本格的な注釈書。両者とも、その課題設定に顕著な特色を見せ、それまでの詠歌方法を大きく発展させる画期的な作品であった。また、後者は、藤原俊成の判詞を持ち、異本も存在するなど、その成立も複雑である。解題、初句索引を付す。（総376頁）
5 (著書) 『古典籍研究ガイダンス 王朝文学をよむために』	共	2012年6月	笠間書院	著書全体の著者名：国文学研究資料館編、小林健二、浅田徹、田野慎二、ほか28名 担当部分の概要：歌書を中心とした絵入り版本の、挿絵の絵画的な情報を読み解き、挿絵の転用の実態を具体的に示した。論考名「版本の挿絵を読む—歌書を中心に—」 （総ページ数445頁、担当ページ、328頁～337頁）